
孤 独

紅満 絢

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

孤独

【Nコード】

N4533J

【作者名】

紅満 絢

【あらすじ】

また明日…来てあげるから

「―総悟!!!!」

病室のドアを勢いよく開ける
そこにいたのは愛しの彼

「なんだお前エーか…驚かせんなイ」

「そ…それはこっちのセリフよ!!!心配したんだから…」

そう言いつつ出てくるのは安堵のため息ばかり

さつき真選組隊士の人から「沖田隊長が攘夷浪士にやられて入院した」って聞いたときは

驚くなんてもんじゃなかった
それこそ血の気が引いて
自分の顔が真っ青になっていくのが自覚できたくらいに

「でも…無事でよかった…」

へなへなと力なくその場に座り込む

「心配かけたみてーだなア」

「べ、別に心配なんかしてないけど…でもほんとに良かったその様子じゃ…怪我也大したことはないんでしょ？」

「…そうでもないですぜ？」

「え？」

けろっとした総悟の口から出たのは信じられない言葉

「こうみえて俺ア：腹に穴、開けちまったんでさア」

「：は？」

腹に：穴？
なにそれ：

「油断した隙にグサリ。まあまさに油断大敵って奴でさア 存外、攘夷の奴らも腐っちゃいねエ：甘く見てかかったのは俺のミスでさア」

「だ：大丈夫なの？！」

「え 何が」

「何がって：体よ、からだ！：！：！：！」

腹に穴って：尋常じゃないでしょ

「い、痛みは？」

「バカ言え この位慣れてらア 俺ア腹に穴開けた位エーで痛み感じるほどやわじゃねーよ」

「だけど：

「でも：本当は今こうして話してるのも辛いんじゃない？」

「俺が」

「え？」

「俺が好きでこうしてるんでさア せいぜいお前エーは看病でもしてやがれ」

「でも…っ」

「絢」

「…っ」

鋭い紅眼に見つめられて

言葉を失う

「わ、分かったわよ！！とりあえず、何か食べたいものは？」
「お前」

まったくコイツは…

人の気も知らないで！！！！

「自分の要求が何でも通ると思ったたら大間違いだから！！！！
た自分のことなんだと思ってるの？！」
あんな

「王子」

「…とうとう脳の先まで腐り果てたわね、あんた」

「うるせーやイ」

そんな憎まれ口たたきながらも

総悟と一緒にいられることが、嬉しかったり。

—なんてね

ちよっと不謹慎かな？

「…はあ 全く、仕方ないわね あんたプリン好き？」
「嫌いじゃねーよ」

「じゃあ次来るときはプリン買ってきてあげるわよ」

「特大のアレ、頼むぜイ」

「はいはい」

いちいち注文が多いのよ、あんたは

「一じゃあ あたしはそろそろ帰るけど 他の隊士さんもお見舞いに来てるみたいだし 待たせるのも悪いでしょ」

「何言ってるんでさア？ 今日くらい泊り込みで看病しろイ」

「だめだよ この病棟、一人当たりの面会時間限られてるんだから…」

「んなもん権力振りかざせば何とかなりまさア」

「いや、そう言うのやめようよ 後々面倒でしょ」

「…」

…総悟は 寂しいんだろうな
強がってるけど やっぱり不安で

誰かとなりにいないと心細くて

分かってるよ

だからあたしだって1人にしたくない 一緒にいたい
でも…さ、どうしても無理なことってあるじゃない

「また明日来てあげるから」

「…ああ 絶対な」

「うん」

見えない約束

なんかカッコイイじゃん…

「なんかお前エ…今日はやけに素直だなア」

「何言ってるの あたしはいつでも素直でしょ くわえて優しい」

「激しく誤解でさア 自意識過剰もいきすぎると危険でイ」

「…なんだと」

一言多いのよ、コイツは

「まあせいぜい、安静にしてみさア」

「早く直しなさいよ 別に心配なんてしてないけど」

「そいつあ何か？計算からなせるツンデレ技なのかイ？」

「え あんたってツンデレ萌えだったの？」

「…別に」

？また明日来てあげるから？

お前が来てくれるなら

きつと…

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4533j/>

孤 独

2011年1月27日10時40分発行